つながりを求めて

特定非営利活動法人なら人権情報センター
奈良県磯城郡田原本町鍵301－1
TEL　0744－33－8585　FAX　0744－32－8833
E-mail　info@nponara.or.jp　　（担当：西田・吉岡）

2025年11月
第145号

NPO 法人なら人権情報センターは、「誰一人取り残さない」やさしさとぬくもりのある地域社会、まちづくりをめざして、地域の人々とつながり、人権を尊重し合える事業を進めています。人権を大切にする気持ち、自分自身を大切にする気持ち、人と人とのつながりを大切にする気持ちを育むために、さまざまな研修や講座、学習支援、相談者に寄り添った各種相談事業をおこなっていきます。多くの町民の皆さんの、ご支援、ご参加をお願いします。

第31回 生き活き交流祭

テ ー マ：人がつながる　やさしさとぬくもりあるまちへ！
と　　き：１２月　7日（日）午前１０時から
と　こ ろ：三宅町文化ホール・文化ホール前駐車場
三宅町交流まちづくりセンターMiiMo 前広場
内　　容：オープニング・出店・文化交流・展示他
トーク＆ライブ：「三宅に響け　平和コンサート」
シンガーソングライター川口真由美さん
主　　催：三宅町/NPO 法人なら人権情報センター
企画・運営：生き活き交流祭実行委員会

～川口真由美さんの紹介～

京都府在住のシンガーソングライター。障害者施設代表。

３人の子どもを育てるシングルマザー。戦争反対・護憲・反原発・沖縄米軍基地建設反対など、運動に参加しながら、メッセージを込めた演奏を行っています。肩を寄せ合い、力を寄せ合いながら生きる人々の中で、悩み、葛藤しながら紡いできた詩とメロディーの力強さは多くの人々の心に響きます。

交流祭は午前中 MiiMo 広場ではオープニング行事、文化ホール前広場は出店、MiiMo1 階はひまわりの家のオリジナル T シャツ・手づくり雑貨の販売とお楽しみコーナーを行います。午後は文化ホール内で文化交流。子どもたちの絵画をはじめとした展示は午前10時～午後4時まで。

人権学習講座
今後の予定

2025年度　三宅町地域人権学習講座

-三宅町から事業委託を受けて行っている人権学習講座です。-
第2回以降の人権講座の予定をお知らせします。みなさまの参加をお待ちしています。

	日　　時	内　　容
第 2 回	11月　8日（土） 10:00～12:30 平端駅改札口集合・解散	**フィールドワーク：「忍性さんを訪ね、額田部を歩く」** ※額安寺－あど郷墓－額田部窯跡－鎌倉墓を訪ねます。 **講　師：奥本　武裕さん（奈良大学教授）**
第 3 回	12月11日（木） 13:30～15:30 場所　MiiMo	**演　題：「輝く笑顔とともに」－カンボジア、子ども支援の現場から** ※カンボジアのポイペトで、子ども支援の活動を続けています。 **講　師：古川　沙樹さん（NPO 法人サンタピアップ代表）**
第 4 回	1月15日（木） 13:30～15:30 場所　MiiMo	**演　題：「不登校問題をともに考える」** ※自身不登校の過程を経験し、放課後デイや若者の就労支援などを続けています。 **講　師：上村　康弘さん（8月まで、「おてらおやつクラブ」で活動）**
第 5 回	2月12日（木） 13:30～15:30 場所　MiiMo	**演　題：「マイクロアグレッションって？」** ※意図に関わらず、偏見や思い込みが言葉や行動に現れ、相手を傷付けてしまう事。 **講　師：内田　龍史さん （関西大学教授）**

第１回報告

１０月２日、ピープルファースト奈良（ひまわりの家）の皆さんから優生手術被害者の裁判支援についてお話いただきました。

初めにピープルファーストは「障害者である前に人間だ」として生まれたこと、不良な子孫の出生を防止する優生保護法や優性思想、優生手術について説明がありました。

2019年から始まった裁判の中では「警察が来て精神病院に連れていかれた。施設の職員の車に乗せられ、不妊手術を受けさせられた。」と当時の様子や「体をもとに戻して欲しい、親の言いなりだったが自分で裁判をおこした」と原告の思いを紹介しました。

当初、地裁では「除斥期間」の壁を破れず、2024年7月の最高裁では勝訴しました。判決の中で裁判官は「原告が被害を訴えられなかったのは差別があったから、国は人権侵害を行った。国が「除斥期間」を主張するのは職権乱用だ」と言ったのです。最後に裁判に支援を続けていろんな話を聞けてよかった。最高裁判決は希望を感じたと感想が出されました。映像に映った顔はいきいきと喜びに満ち溢れていました。

かいほう塾

三宅町地域人権学習事業の一つである、学習支援「かいほう塾」の開講式と第1回「かいほう塾」を、9月11日、三宅町交流まちづくりセンターMiiMo でおこないました。
参加者は生徒10人、ボランティアスタッフ8人、関係者など総勢30人。
　開講式では、三宅町教育委員会の大泉志保教育長、運営者の NPO法人なら人権情報センター古川友則理事長のあいさつ、式下中学校仲川伸也校長の激励の言葉を受け、ボランティアスタッフの自己紹介をおこないました。

　ひきつづき、第1回「かいほう塾」がスタート。

3年生3人、2年生3人、1年生4人の参加でしたが、最初だったせいか、学年ごとのグループに分かれ、ボランティアスタッフとほとんどマンツーマンで学習をはじめました。今後の学年をこえた交流が楽しみです。

　9月18日から10月9日までの毎週木曜日、第2回～第5回「かいほう塾」をおこないました。参加生徒も徐々に増えて、現在3年生4人、2年生7人、1年生5人の16人になっています。3年生は来春に向けて力が入ってきた様子です。「かいほう塾」も例年は2月まででしたが、今年度は3月まで実施し、生徒と一緒に頑張っていきたいと思います。

かいほう塾はいつでも参加できます。気軽に一度見に来てください！

<かいほう塾の日程・場所>
11月6日（木）・13日（木）・20日（木）・27日（木）
12月4日（木）・11日（木）・18日（木）
1月15日（木）・22日（木）・29日（木）

三宅町まちづくり交流センター　MiiMｏ
19:00～20:30

ひと休み

一字だけ違う漢字があります。
（答えは最終ページの下です。）

慌慌慌慌慌慌慌慌慌慌
慌慌慌慌慌慌慌慌慌慌
慌慌慌慌慌慌慌慌慌慌
慌慌慌慌慌慌梳慌慌
慌慌慌慌慌慌慌慌慌慌
慌慌慌慌慌慌慌慌慌慌
慌慌慌慌慌慌慌慌慌慌
慌慌慌慌慌慌慌慌慌慌
慌慌慌慌慌慌慌慌慌慌

よもやま話

今年もはや11月、やっと暑い夏も終わり稲刈りも終わる時期です。去年からの米の高騰も落ち着き始めるのでしょうか。しかし食料品を始め物価の値上がりはまだまだ続きそうです。

2025年は、昭和100年、戦後80年の節目の年でした。日本は過去の様々な問題を抱えたまま現在に至っていますが、将来にも大きな問題を抱えています。

それは「2025年問題」です。団塊の世代と言われる800万人が75歳以上の後期高齢者になりました。1980年～90年のバブル期、労働者不足のため、多くの企業は定年を55歳から60歳～65歳に引き伸ばしました。その後、国は年金給付の年齢を60歳から65歳まで段階的に引き上げていきました。少子高齢化による、年金制度の疲弊は退職年齢と年金給付年齢を引き延ばし、所得格差と生活不安を増大させました。

働き手の不足は、特に農業や建設業が深刻です。農家の平均年齢は68．4歳で、建設労働者の3分の1が55歳以上で、30歳以下は10分の1だそうです。

人口の少ない自治体はでは、産業やサービスが維持できず、倒産や廃業・事業撤退などが進行しています。そのためますます若年層が都市部に流出することになります。同時に地方自治体の税収が減り、公的な行政サービスの低下が懸念されます。若者が、自分の生まれた町に魅力を感じ、お年寄りが元気に暮らしていける、生き活きとしたまちづくりに特効薬はありません。まずは地域に根ざした人と人との関係を大切にしていくことからしか始まらないのではないでしょうか。

人権相談

あなたはひとりじゃない！　～　一人で悩まないで　～

あなたの身の周りに起きている心配ごと、困りごとをどうしていますか？たとえば子どものことや家族のこと、仕事のことや将来の不安、DV などがそうです。

友達や家族、公的機関などに相談するのは良しとして「他の人に知られたくない」、「相談するところが解らない」などと考えてじっと我慢している方、いらっしゃいませんか？もしかすると解決する方法はあるかも。解決とまではいかなくても一筋の光が見えるかもしれませんし話すだけでも気持ちが楽になるかもしれません。どうか一人で抱え込まないで欲しいというのが私たちのメッセージです。まず下記までお気軽にお電話ください。また三宅町人権センター2階相談室で面接相談も行っていますのでご利用ください。（要予約）**プライバシーは厳守いたします。安心してご連絡ください。**

三宅町人権相談窓口

奈良県磯城郡三宅町屏風 250-21　三宅町人権センター内
電話/Fax　0745-42-2221
相談日　毎週水曜日　（11 時～16 時・第5水曜日は除く）

答え：上から4行目の右から3列目「梳」です。